

令和5年12月19日

## 地球温暖化対策は現実的に進めるべきだ—COP28 閉幕

核兵器廃絶・平和建設国民会議  
(略称 KAKKIN)  
事務局長 岩附 宏幸

今年の夏は暑かった、このところ季節外れの陽気が続いている。これも地球温暖化のせいなのか——そんな思いで関心を持っていた国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議(COP28、於ドバイ)が12月13日、会期を1日延長して閉幕した。

COP28の成果文書にはまず、世界の平均気温が産業革命前とくらべて既に1.1度上昇しており、気温上昇を1.5度に抑えるには、温室効果ガスの排出量を2019年と比べ、2030年までに43%、2035年までに60%削減する必要があることが記され、その上で、

①2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする目標達成に向け、石炭・石油など化石燃料からの脱却を進める。

(化石燃料の削減にCOPの成果文書が言及するのは初めて)

②温室効果ガスの排出削減措置のない石炭火力発電を段階的に削減する。

③再生可能エネルギーの発電能力を2030年までに3倍にする。

などが盛り込まれた。

温室効果ガス削減に関する国際的な枠組みであるパリ協定には、5年ごとに世界全体の取り組み進捗を評価し、一方でそれを踏まえて各国に削減目標を5年ごとに見直し・提出させる2つの5年サイクルの仕組みがある。この仕組みと今回の合意文書を受けて、各国は2025年までに新たな温室効果ガス削減目標を提出することになる。

日本としても化石燃料からの転換の方向性が国際社会の総意となったことから、それに応じた対策を取ることになろう。現状、日本の温室効果ガス排出量は世界の3.2%(2020年、CO<sub>2</sub>換算)。また目標として2030年度に2013年度比で46%減、2050年までに排出実質ゼロを掲げている。

KAKKINは地球温暖化対策を重要な課題と考えている。そしてそこではエネルギーの安全性、安定供給、経済性の視点が欠かせず、S+3Eのバランスが取れた現実的な政策を求める。脱炭素は正しいが、正しいといってすぐにできるものではない。当面は化石燃料を使わざるをえないし、原子力エネルギーの活用も重要だ。S+3Eをすべて満たす完璧なエネルギーは存在しない。エネルギーミックスが重要なゆえんである。来年には第7次エネルギー基本計画の検討が始まるという。COP28を踏まえてどのような議論がされるのか、しっかり注視していきたい。

以上